

第 63 回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

香蘭女学校中等科 3 年

松本 実久

課題③

今年、加盟国最多の 12 回目の安保理非常任理事国となった日本は、どのような取組をおこなうことで、世界の平和と安全に貢献すべきか。

副題

常任理事国の有無

常任理事国があることでメリットはあるが最近、拒否権の行使などが目立ってきている。さらに今後どのように変わっていくかわからないから私は日本は非常任理事国の一つとして、常任理事国という枠組みをなくすことをすべきだと思う。そして非常任理事国を五カ国増やすべきだと思う。そもそも具体的な問題点とは何か考えていく。常任理事国が存在することの問題点は三つある。

問題点の一つ目は安保理は歴史に囚われているということである。国際連合は第二次世界大戦に勝った国が中心となってつくってきたため、常任理事国というのもアメリカ、中国、ロシアなど第二次世界大戦の勝ち組である。この五カ国が戦争などに手を出さなければ常任理事国という枠組みを作っていないものの、ロシアはウクライナ戦争を起こしたり、中国は台湾周辺で軍を動かしていたりするため特にこの二カ国は安保理に常任理事国として参加することはふさわしくないと思う。そもそも安全保障理事会というのは今後どのように平和な世の中にしていくのかという会議だ。だからこそ、戦争は悲惨ということは憶えておく必要があるが第二次世界大戦の勝敗などの過去は水に流すことが重要になっていくと思う。

問題点の二つ目は制裁力の弱まりである。常任理事国は核、軍を持っているのにも関わらず拒否権をもっていることである。そのため、核兵器に関する議題では反対する傾向が強い。また、最近議会で話し合われている内容のものは 1900 年代から話し合われてきたものが多い。つまり 1990 年代から話し合われているのにも関わらず解決していないものが多いということである。そこで 15 カ国すべてを非常任理事国にすることで拒否権の権力がなくなったり、一つ一つの国が対等な関係になりやすかったりすると思う。さらに、拒否権がなくなることで長年進まなかった化学兵器、シリア人道的アクセスなど様々な問題が解決の方向へ進むと思う。また、すべての国が安保理に出られる確率が上がると思う。色々な国が安保理に参加することで多様な意見が出て議会を活発化することができると思う。

三つ目の問題点は、常任理事国は今となっては同じような立場の国が多いという点である。例えば、白人が多い国、経済が進んでいる国、北半球に面しているなどがあがると思う。そのため、問題を解決するのにあたって多様な立場からの意見がなくては解決することができないと思う。さらに五

カ国が同じような立場では常任理事国が優位に立つような解決策になってきてしまう。そこで常任理事国をなくすことで多様な立場の国が安保理に参加できる。そして当事者の国やその近隣の国の意見が聞きやすくなったため議会在これまで以上に活発になる。

このように安保理の開始時期にはメリットが多かった常任理事国だが、今となってはメリットが少ない。それよりも問題点が多い。時代の流れによって考え方が変わるのは仕方がないことだがそれに対応しないことでこの安保理は時代の流れから取り残されてしまう。このままでは安保理が開かれていることの意味がなくなってしまう。だからこそ、非常任理事国の日本が常任理事国を無くしてより活発的によりたくさんの人のための会議にしていくべきだと思う。さらに、対等な関係を築くことで平和問題以外にも温暖化対策などの問題の連携が取れやすくなったり、今後直面する問題も上に立つ国がいなくなったことにより全ての国が主体的に動くことによって解決しやすくなると思う。経済的にも連携が強まり更なる発展がある可能性も考えられる。このように常任理事国がないことで現在の状況と調和しより良い未来になっていくと思う。